

大賞

生き物のやさしさ

荒川区立峡田小学校 三年

すず木 ゆうと

やなぎ田先生こんにちは。

先生は、たくさんの生き物見たことはありますか、ぼくは、おじいちゃんと長野県に行ったときの夜の事です。きつねを見てよく見ると、え物をくわえていました。それは、かりをした後の時でした。その時ぼくは、自分もおなかがいっぱいでした。すにもちかえって、子どもたちとかにあげようとしていたんだなと、思って、生き物ってやさしいんだなと思いました。

この本みたいに地か100階にすんでいるカメのお

たん生日会で、その家にすんでるみみずや、はりネズミやたくさんのだう物たちが、カメのためにプレゼントを作っていたので、生き物はやさしいなと思いました。

長野県の畑でたくさん生き物がいました。ぼくは、さいしょはミミズがきらいだったけど、おじいちゃんから、

「ミミズは、土のえいようになるんだよ」と聞いたら、ミミズをすきになりました。ミミズ同しのためにもなって、ぼくたちのためにもがんばってくれているんだなと思いました。モンシロチョウは、キャベツを食べるので、キャベツあなだらけになっていました。でも、モンシロチョウは、キャベツを食べなければ生きていけないからしょうがないと思いました。

この本では、生き物同士が仲よくくらし生活しているところがすごいなと思いました。なぜなら、てんてき同士が一しょにくらしてるのがすばらしいことだなと思います。

おじいちゃんは今シロチョウのたまごをいらないキャベツにうつしてふかせていたからです。おじいちゃんに生き物をたい切になさいと言われました。

ぼくは、生き物にもいのちがあるからそのいのちをたい切にしたいと思いました。